

ヤチダモ

Fraxinus mandshurica

モクセイ科



ヤチダモ

名前の由来

「ヤチ」は谷地または野地と書き湿地を表す。「タモ」は、霊＝タマで、樹霊信仰からきているという説と、トネリコの仲間は材がねばり強く曲げても折れない「撓む（たわむ、たむ）木」であることからきているという説がある。漢字名：榊

形態的特徴

樹高30m、太さ80～100cmになる。幹があまり枝分かれせずまっすぐに伸び、高くなる。葉は奇数羽状複葉で長さ30～40cm、小葉は7～11枚、頂小葉をのぞいて無柄、狭長楕円形で縁に細鋸歯がある、長さ6～15cm、幅2～5cm、鋭尖頭で基部はゆがんだくさび形。対生。雌雄異株。前年枝の腋芽から花序をだし多数の花をつける、花冠はない、雄花の葯は暗赤色、雌花序は淡緑黄色、5月に開花、葉が開く前に咲く。果実は翼果で、広倒披針形で先がややとがり、

長さ2.5～3.5cm、幅7～8mm。10月に成熟し、黄緑色から褐色になる。

類似種との見分け方：アオダモの花は白いが、ヤチダモの花には花びらがなく、また葉が出る前に咲く。またアオダモの小葉は3～7枚と少ないが、ヤチダモの小葉は7～11枚と多い。またヤチダモの樹皮は灰白色で浅く縦に裂ける。オニグルミは互生であるがヤチダモは対生。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ



ヤチダモの雄花。オスの木のみ咲く



ヤチダモの雌花。メスの木のみ咲く



ヤチダモの実。雌株。プロペラ状の翼がある



ヤチダモの葉。これで一つの葉(羽状複葉)。細かいギザギザ(細鋸歯)がある



ヤチダモの樹形(雌株)。特に若いうちは幹が一本直立する



ヤチダモの樹皮。浅く縦に裂ける。幹は身が詰まった感じ



ヤチダモの冬芽。円錐形、5～8mm。2個向かい合う



ヤチダモの枝先の葉(上)。葉は2つずつ向かい合ってつく(対生)(下)

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期							■					

生育環境・分布

湿地周辺や平地～山間のやや湿った所に多く生える。

分布：国外分布は、朝鮮。国内分布は、北海道、本州（中部以北）。北海道内分布は、全域。

十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

5月に開花、葉が開く前に咲く。果実は翼果は広倒披針形で先はややとがる、長さ2.5～3.5cm、幅7～8mm、10月に成熟し、黄緑色から褐色になる。種には翼が付き、風に乗って広がる。寿命300年。樹齢298年の標本がある（新王子林木育種場 標本館）



ヤチダモの実。
翼状のサヤの中に種子があり、発芽に時間がかかる

他生物との関わり

不明。

植栽関係

土壌：埴質壤土、適潤性～弱湿性、通気性は中程度の場所、pHは弱酸性、堅密度は中程度の場所。光は中間性木。樹齢40年で、直径24cm、樹高12m、根系の最大深度200cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植は容易。湿性土壌にも良く成長。切り株からは萌芽することが多い。種子（果実）は褐色になって熟してから播くと翌々年に発芽するが、黄色や緑のうちに早取りすると翌年発芽する。



ヤチダモ。
まっすぐ大きく育ったものを舟にしたという

興味深い話

■建築・家具・器具材、公園・街路樹、防風林などに用いられる。

■十勝地方ほかのアイヌ語ではピンニという。

■アイヌはヤチダモで丸木船をつくった。言い伝えでは、ヤチダモの木の舟は豊漁に恵まれるとも言う。ヤチダモの木の神は感情もあれば人間の言葉を聞き分ける能力を持つと言われている。またコタンの伝説に、森の守り神であるフクロウは背の高いヤチダモの木の上で、人間界に悪魔が近づくのを見張った、というものがあるという。

配慮事項

樹齢40年で、直径24cm、樹高12m、根系の最大深度200cm、根の広がり半径1.5m。根の支持力は強い。移植は容易。湿

性土壌にも良く成立。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜理西社 1990

「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992

「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991

「天然林施業Q&A」石塚森吉ら 北方林業会編 pp.107-108 1988

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996

「新装版 樹木根系図説」菊住昇 誠文堂新光社 1987

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館（編）、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦：光珠内季報116 p:14～p:17 1999